



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年2月14日

上場会社名 株式会社 御園座 上場取引所 名
 コード番号 9664 URL http://www.misonoza.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮崎敏明
 問合せ先責任者 (役職名)取締役財務経理部長 (氏名)増井敏樹 (TEL) (052) 222-8202
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	451	4.0	△19	-	△38	-	21	6.2
29年3月期第3四半期	434	△34.0	21	△58.4	23	△56.3	20	△38.2

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	0.44	-
29年3月期第3四半期	0.42	-

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	6,943	4,611	66.4
29年3月期	4,642	4,287	92.4

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 4,623百万円 29年3月期 4,287百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	-	-	-	0.00	0.00
30年3月期	-	-	-	-	-
30年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	437	△15.1	△286	-	△227	-	△228	-	△4.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	49,845,000株	29年3月期	49,243,000株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	48,684株	29年3月期	46,064株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	49,616,914株	29年3月期3Q	49,198,227株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	1
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	1
2. 四半期財務諸表及び主な注記	2
(1) 四半期貸借対照表	2
(2) 四半期損益計算書	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済状況は、企業業績および株価が好調で、雇用情勢は改善され所得環境が上向いており、景気は緩やかな回復基調が続きました。

しかしながら、個人消費は将来不安に対する節約志向が定着しており、今後も低調な推移が続く見込みです。

興行業界においては、消費者のニーズに応えられる新たな取り組みが必要となっております。

そのような中、当社は、平成29年10月には恒例となりました金山の日本特殊陶業市民会館における歌舞伎「錦秋名古屋顔見世」、11月には「八代亜紀スペシャルステージ」を上演し、本年4月開場に向けた年間の公演発表及び「柿茸落四月大歌舞伎」記者会見を行いました。

また、中日劇場への各種公演の販売協力を行いました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は4億5千1百万円、営業損失は1千9百万円、経常損失は3千8百万円、四半期純利益は2千1百万円を計上いたしました。なお、営業利益、経常利益は赤字となりましたが、これは、平成30年度上半期の公演ラインナップ、同下半期の公演ラインナップの対外公表・告知などの広告宣伝費など、新劇場の開場準備に伴う特殊要因を計上したためであり、これらの要因を除けば、営業利益、経常利益ともに、前年同期とほぼ同額の黒字を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、8億4百万円となり、前事業年度末に比べ17億7千5百万円の減少となりました。この主な要因は、現金及び預金が20億3千万円減少したことによるものであります。固定資産の残高は、61億3千8百万円となり、前事業年度末に比べ40億7千6百万円の増加となりました。この主な要因は、建物が24億8千6百万円、建設仮勘定が13億6千4百万円増加したことによるものであります。この結果、総資産は、69億4千3百万円となり、前事業年度末に比べ23億円の増加となりました。

(負債の部)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、1億8千2百万円となり、前事業年度末に比べ1億2千6百万円の増加となりました。この主な要因は、1年内返済予定の長期借入金が1億5千万円増加したことによるものであります。固定負債の残高は、21億4千9百万円となり、前事業年度末に比べ18億5千万円の増加となりました。この主な要因は、長期借入金が18億5千万円増加したことによるものであります。この結果、負債合計は、23億3千2百万円となり、前事業年度末に比べ19億7千6百万円の増加となりました。

(純資産の部)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、46億1千1百万円となり、前事業年度末に比べ3億2千3百万円の増加となりました。この主な要因は、資本金が1億5千万円、資本剰余金が1億5千万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,556,359	525,744
受取手形及び売掛金	3,643	67,266
貯蔵品	620	683
その他	21,358	211,964
貸倒引当金	△1,477	△997
流動資産合計	2,580,505	804,662
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	309	2,486,593
土地	2,010,112	2,124,282
建設仮勘定	-	1,364,695
その他	-	64,504
有形固定資産合計	2,010,421	6,040,076
無形固定資産		
	83	43,817
投資その他の資産		
投資有価証券	42,068	44,721
その他	9,520	10,019
投資その他の資産合計	51,589	54,740
固定資産合計	2,062,094	6,138,635
資産合計	4,642,600	6,943,297
負債の部		
流動負債		
買掛金	27	5,927
一年内返済予定の長期借入金	-	150,000
未払法人税等	9,619	9,287
前受金	17,460	8,880
預り金	2,373	2,691
その他	26,604	5,961
流動負債合計	56,084	182,746
固定負債		
長期借入金	-	1,850,000
繰延税金負債	275,821	275,901
退職給付引当金	23,211	23,443
固定負債合計	299,032	2,149,344
負債合計	355,116	2,332,091

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,121,437	2,271,937
資本剰余金	1,987,121	2,137,621
利益剰余金	205,119	226,992
自己株式	△36,444	△38,166
株主資本合計	4,277,234	4,598,384
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,248	12,821
評価・換算差額等合計	10,248	12,821
純資産合計	4,287,483	4,611,205
負債純資産合計	4,642,600	6,943,297

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	434,438	451,805
売上原価	332,774	354,673
売上総利益	101,663	97,132
販売費及び一般管理費	80,406	116,277
営業利益又は営業損失(△)	21,257	△19,145
営業外収益		
受取利息	428	169
受取配当金	1,296	1,300
受取手数料	-	1,100
その他	439	1,160
営業外収益合計	2,165	3,730
営業外費用		
支払利息	3	367
株式交付費	-	2,379
支払手数料	1	20,020
その他	0	67
営業外費用合計	5	22,834
経常利益又は経常損失(△)	23,416	△38,249
特別利益		
固定資産受贈益	-	64,504
特別利益合計	-	64,504
特別損失		
投資有価証券評価損	48	-
特別損失合計	48	-
税引前四半期純利益	23,368	26,255
法人税、住民税及び事業税	2,771	4,382
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	2,771	4,382
四半期純利益	20,597	21,873

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年6月20日付で、株式会社宮崎など法人8社、個人13名から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金が150百万円、資本準備金が150百万円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が2,271百万円、資本準備金が2,137百万円となっております。